

令和元年度

事業報告書

学校法人君津学園

令和元年度 事業報告書

I	法人の概要	
	1、設置する学校の内容	----- 2
	2、学校法人の沿革	----- 3
	3、役員等に関する事項	----- 4
	① 理事、監事に関する事項	
	② 評議員に関する事項	
	4、学校法人君津学園組織図	----- 6
II	事業の概要	
	1、教育活動に関する事項	-----7
	① 清和大学に関する事項	
	② 清和大学短期大学部に関する事項	
	③ 木更津総合高等学校に関する事項	
	④ 市原中央高等学校に関する事項	
	⑤ 清和大学附属幼稚園に関する事項	
	2、研究に関する事項	-----13
	① 清和大学に関する事項	
	② 清和大学短期大学部に関する事項	
	3、キャンパス等充実にに関する事項	-----16
III	財務の概要	
	1、財務の経年比較	-----17
	2、借入金の状況	-----20

I 学校法人の概要

フリガナ 学校法人名	所在地
学校法人 キミツガクエン 君津学園	〒292-8511 千葉県木更津市東太田3丁目4番1号
(大臣認可年月日 昭和42年1月23日)	TEL : 0438(30)5500

1、設置する学校の内容

(令和元年5月1日現在)

学校名 (所在地)	学部 学科等名	開設 年度	入学 定員	志願 者数	入学 者数	入学定 員充足率	収容 員	現員	収用定 員充足率
清和大学 (千葉県木更津市東太田3丁目4番5号)	法学部 法律学科	H6	190	255	212	112.0%	760	728	96.0%
清和大学短期大学部 (千葉県木更津市東太田3丁目4番2号)	こども学科	S42	100	79	76	76.0%	200	148	74.0%
木更津総合高等学校 (千葉県木更津市東太田3丁目4番1号)	全日制課程 普通科	H15	720	2,035	598	83.0%	2,160	1,919	89.0%
市原中央高等学校 (千葉県市原市土宇1481)	全日制課程 普通科	S58	350	1,433	304	87.0%	1,050	835	80.0%
清和大学附属八重原幼稚園 (千葉県君津市南子安1377番地)		S43	130	-	-	-	340	281	83.0%
清和大学附属畑沢幼稚園 (千葉県木更津市畑沢3丁目9番1号)		S46	120	-	-	-	270	233	86.0%
清和大学附属金田幼稚園 (千葉県木更津市中島1250番地)		S52	60	-	-	-	100	84	84.0%

2、学校法人の沿革（概要）等

学 校 法 人 の 沿 革 （ 概 要 ）		
昭和21年	4月	木更津市に英語講習所開設
昭和24年	2月	各種学校君津学院設立
昭和26年	4月	木更津高等家政女学校設立
昭和35年	8月	学校法人君津学園設立認可
昭和38年	4月	木更津中央高等学校設立
昭和42年	4月	清和女子短期大学幼児教育科設立
昭和43年	4月	清和女子短期大学附属八重原幼稚園設立
昭和46年	4月	清和女子短期大学附属畑沢幼稚園設立
昭和48年	4月	木更津高等家政女学校を廃止し、清和女子短期大学附属高等学校設立
昭和51年	4月	清和女子短期大学幼児教育科を児童教育学科に変更
昭和52年	4月	清和女子短期大学附属金田幼稚園設立
昭和58年	4月	市原中央高等学校設立
平成2年	1月	君津学園家政専門学院廃止
平成5年	12月	清和大学法学部法律学科設置認可
平成6年	4月	清和大学法学部法律学科開学
平成15年	4月	木更津中央高等学校・清和女子短期大学附属高等学校廃止
平成15年	4月	木更津総合高等学校設置認可
平成15年	4月	清和女子短期大学を清和大学短期大学部に校名変更
平成15年	4月	清和女子短期大学附属幼稚園を清和大学附属幼稚園に園名変更
平成17年	4月	清和大学短期大学部児童教育学科を児童総合学科に名称変更
平成18年	4月	清和大学法学部法律学科に教職課程を設置
平成30年	4月	清和大学法学部法律学科夜間主コースを廃止
平成30年	4月	清和大学短期大学部児童総合学科をこども学科に名称変更

3、役員等に関する事項

① 理事、監事に関する事項

(令和元年7月1日現在)

区別・職名		フリガナ氏名	性別	常勤・非常勤	現職	住所	就任年月日 (重任年月日)	選任区分
理事	理事長	マイタ リュウタロウ 真板 竜太郎	男	常勤	清和大学短期大学部学長 木更津総合高等学校校長	千葉県木更津市	平成11年9月27日 (H27.12.01)	第2号(短大学長)
理事	副理事長	マイタ ヨウスケ 真板 陽介	男	常勤	学校法人君津学園事務局長 清和大学附属幼稚園園長	千葉県木更津市	平成27年11月27日 (H27.12.01)	第3号(評議員会選任)
理事		オダ キョウイチ 田 恭一	男	常勤	清和大学学長	千葉県木更津市	平成26年11月1日 ()	第1号(大学学長)
理事		ツネズミ リョウヘイ 常澄 良平	男	非常勤	無職	千葉県市原市	平成30年2月23日 ()	第3号(評議員会選任)
理事		トリウミ タカミツ 鳥海 高充	男	非常勤	カギサグループ(株) 代表取締役	千葉県富津市	平成16年12月25日 (H27.12.01)	第3号(評議員会選任)
理事		コンドウ イクコ 近藤 郁子	女	非常勤	ピアノ教師	千葉県木更津市	平成20年3月1日 (H27.12.01)	第4号(理事会選任)
理事		カワシマ ユキコ 川島 幸子	女	非常勤	無職	千葉県佐倉市	平成11年12月1日 (H27.12.01)	第4号(理事会選任)
監事		スズキ カツエ 鈴木 勝江	女	非常勤	無職	千葉県富津市	平成21年11月1日 (H28.03.25)	
監事		カタヤマ フタル 片山 渉	男	非常勤	無職	千葉県木更津市	令和1年6月1日	

＜理事＞		＜理事選任条項＞	
定数	7人	第9条第1項第1号	清和大学の学長
実数	常勤	第9条第1項第2号	清和大学短期大学の学長
	非常勤	第9条第1項第3号	評議員のうちから評議員の互選によって定められた者
	計	第9条第1項第4号	この法人に功労のあった者または学識経験者のうちから前各号に規定する理事の過半数以上をもって選任された者

＜監事＞		＜選任条項別定数実数＞		＜平成30年度中の理事会開催状況＞		
定数	2人	区分	定数	実数	定例	2回
実数	常勤	1号	1人	1人	臨時	5回
	非常勤	2号	1人	1人	計	7回
	計	3号	3人	3人		
		4号	2人	2人		

② 評議員に関する事項

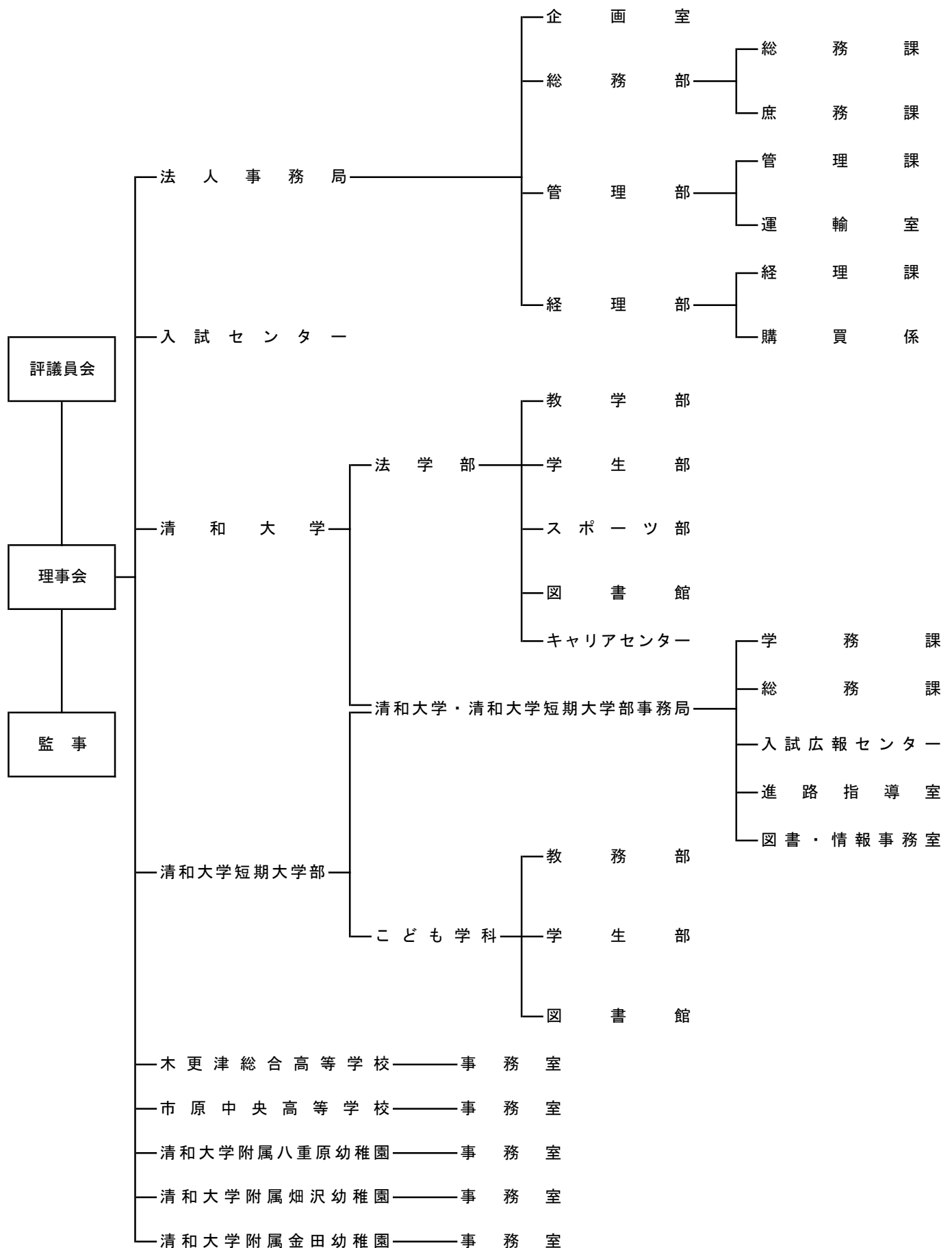
(令和元年7月1日現在)

＜評議員の構成＞			＜選任条項別定数実数＞			＜評議員選任条項＞									
定数	15～21		区分	定数	実数	第16条第1項第1号	第16条第1項第2号	第16条第1項第3号	第16条第1項第4号	第16条第1項第5号	第16条第1項第6号	第16条第1項第7号	第16条第1項第8号	第16条第1項第9号	第16条第1項第10号
実数	常勤	4	1号	1人	1人	清和大学の学長	清和大学短期大学の学長	清和大学の法学部長	清和大学の教務部長	清和大学の教務部長	この法人の職員のうちから理事会において選任された者	理事のうちから理事会において選任された者	この法人の設置する学校を卒業した者で、年齢25歳以上の者のうちから理事会において選任された者	この法人の設置する学校の在学者の父兄若しくは保護者のうちから理事会において選任された者	この法人に関係ある学識経験者および功労者で前各号に規定する評議員の過半数以上をもって選任された者
	非常勤	13	2・5号	1人	1人										
	計	17	3・4号	1人	1人										
＜平成30年度中の評議員会開催状況＞			6号	1～2人	1人										
定例	2回		7号	2～3人	2人										
臨時	6回		8号	4～5人	4人										
計	8回		9号	2～3人	3人										
10号			10号	3～4人	4人										

フリガナ氏名	性別	現職	住所	就任		選任区分等	
				就任年月日	重任年月日	項又は号	選任区分
織田 恭一	男	清和大学学長	千葉県木更津市	H26.11.1		1項1号	清和大学学長
佐伯 康子	女	清和大学教学部長	東京都港区	H31.4.1 H26.12.1		1項3号 1項4号	法学部長 教学部長
眞板 竜太郎	男	清和大学短期大学部学長 木更津総合高等学校校長	千葉県木更津市	H26.4.1 H26.11.1		1項2号 1項5号	短大学長 木更津総合高等学校校長
眞板 陽介	男	君津学園法人事務局長 清和大学附属幼稚園園長	千葉県木更津市	H26.4.1		1項6号	法人職員のうち理事会選任
川島 幸子	女	無職	千葉県佐倉市	H11.12.1	H28.8.1	1項7号	理事のうち理事会選任
近藤 郁子	女	ピアノ教師	千葉県木更津市	H20.3.1	H28.8.1	1項7号	理事のうち理事会選任
眞板 美佐子	女	無職	千葉県木更津市	S35.8.1	H28.8.1	1項8号	法人設置学校卒業生のうち理事会選任
髙橋 竹和	男	生花店経営	千葉県木更津市	H22.3.25	H28.8.1	1項8号	法人設置学校卒業生のうち理事会選任
川上 太郎	男	川上商店店主(米穀商)	千葉県市原市	S62.9.5	H28.8.1	1項8号	法人設置学校卒業生のうち理事会選任
下田 正行	男	無職	千葉県君津市	S62.9.5	H28.8.1	1項8号	法人設置学校卒業生のうち理事会選任
小野 和洋	男	袖ヶ浦市役所職員	千葉県袖ヶ浦市	R1.5.28		1項9号	法人設置学校在学者父兄のうち理事会選任
櫻田 剛	男	上総記念病院 診療技術部課長	千葉県木更津市	H30.5.29		1項9号	法人設置学校在学者父兄のうち理事会選任
沖埜 昌仁	男	清和大学職員	千葉県市原市	R1.5.28		1項9号	法人設置学校在学者父兄のうち理事会選任
鳥海 高亮	男	カキサグループ(株) 代表取締役	千葉県富津市	H16.12.25	H28.8.1	1項10号	学識経験者及び功労者で評議員会選任
常澄 良平	男	無職	千葉県市原市	H30.2.23		1項10号	学識経験者及び功労者で評議員会選任
山田 千穂	男	無職	千葉県市原市	S62.9.5	H28.8.1	1項10号	学識経験者及び功労者で評議員会選任
山田 敏江	女	君津学園参与	千葉県市原市	H11.12.1	H28.8.1	1項10号	学識経験者及び功労者で評議員会選任

4、学校法人組織機構図

令和元年7月1日現在



1、教育に関する事項

① 清和大学に関する事項

本学では、FD活動の一環として、平成25年度より、教職員相互間の授業参観を実施している。これは、教員同士がお互いの授業を見学し、意見交換を行うことで、「授業の改善」と「教育力の向上」を目指すものである。見学者からの意見等については、その内容を分析しFD研修会等で活用されている。また、本学ではより良い授業を展開するために非常勤講師を含めたすべての教員の授業アンケートを実施しており、その結果に対して、授業担当者からフィードバックシートの回収を行っている。これらのデータについては、FD研修会等でも活用されており、授業実施における課題と解決策を全教員で協議することによって、授業改善に向けて役立てることができている。

また、大学教育の質保証の一環として、適正な成績評価を行うべく、本年度から、出席管理システムを導入した。システムの導入に当たり、「出席要件」や「公欠規定」も定め、出欠席等の取り扱いについて明確化を図り、周知徹底を図った。また、これに併せて「GPA（Grade Point Average）制度」の導入についても継続して検討を行い、透明性のある成績評価の導入を目指した活動を行った。

地域連携としては、本学は、平成27年度より近隣の県立高校5校（木更津東高等学校、天羽高等学校、上総高等学校、君津商業高等学校、君津高等学校）との間に連携協定を結んでおり、これに加えて平成29年度より国立木更津工業高等専門学校との間にも協定を締結している。各校のニーズの違いを念頭に置きながら、本学が地域の教育に関するコンソーシアムの核となるべく、連携校との関係の強化に努めている。今年度については、本学の教員が、英語コンテストの審査員を務めるなど、いくつかの地域活動にも貢献することができた。

教職課程においては、4学年合わせて約60名が履修しており、令和元年度においては、17名が教員免許を取得した。そのうち、5名の卒業生が千葉県内の小中学校の講師として4月より勤務を開始している。また、既卒者についても新たに4名が教員採用試験に合格を果たした。教職課程の取り組みとして、星槎大学（神奈川県）と連携協定を締結し、中高保健体育、小学校、特別支援学校の教員免許状取得への道をひらくことができた。入学段階から、星槎大学での履修を希望している学生もおり、今後の教職課程履修者の進路の多様化が期待できる。また、キャリアセンターにおいては、継続してきめ細かいキャリア教育を展開しており、同センターが開講している公務員試験対策講座、資格対策講座及び就職対策講座については、本年度も多くの学生が履修した。昨今は入学の段階で公務員を志望する学生が増加する傾向にあり、目標を持って入学した学生達の夢を実現させるべく、各種試験対策講座の内容の充実につとめ、一人ひとりの希望にあわせた指導を実施した結果、今年度の卒業生については、警察官をはじめ、行政職員、自衛隊幹部候補生等に延べ26名の合格者を輩出す

ることができた。ここ数年は、近隣の市役所の行政上級職に合格者を出すことができ
ており、また、本年度は自衛隊幹部候補生の合格者を輩出することができたことは特
筆すべき点である。就職内定率も97.1%と非常に高い水準を維持しており、本学
のキャリア教育の成果がうかがえる。

また、昨年度より「学力特待生制度」がスタートしたことを受け、学力特待生を対
象とし、SLP (Student Leadership Project) を展開した。SLPのメンバーには、
論理的思考能力や課題発足能力を向上させるための講座の開設に加え、オープンキャン
パススタッフとして、各回のテーマに合ったプレゼンテーションを実施させるなど、
リーダーシップ能力を育てるための取り組みを展開した。

② 清和大学短期大学部に関する事項

本年度は創立50周年を記念して建設した新校舎でのスタートとなった。新装した
学舎の施設、設備は学生に充実した学園生活を提供するに留まらず、教職員にとっ
ても学園のさらなる発展と教育の質の向上に努めるべく、校訓である「まごころ」の理
念を再確認する機会となった。

授業等については、年間計画表に基づき規定回数を確実に実施している。また、教
育実習、保育所及び施設での実習についても、必要な期間に適切な実習を行うことが
できた。昨今は実習に際して、事前指導及び事後指導の徹底を推進しており、今年度
も学生一人ひとりに対してきめ細かい指導を行った。これらの成果もあり、本年度の
卒業生71名のうち、幼稚園教諭二種免許状取得者46名、保育士登録資格取得者6
1名となっており、多くの卒業生たちがそれぞれの免許・資格を活かすことができる、
園や施設等からの内定を得ることができた。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、平成11年度から実施している
「卒業記念発表会」を直前になって中止せざるを得なかった。ピアノ独奏、各種アン
サンブル、ダンス等、公演に向けて日々研鑽を積んだ学生の努力に思いをはせると痛
恨の極みであったが、発表会に向けての取り組みは、本学での学修成果として、今後
の幼児保育者としての活動にいかすことができるものと考えている。

恒例の1年生全員を対象とした「学外実習 館山集中授業」を5月29日から31
日まで、二泊三日の日程で実施した。この学外実習は、1年生の卒業必修科目である
「レクリエーション実技Ⅰ」を集中授業形式で実施しているものである。

各種レクリエーションの体験や野外活動を通じて、当該授業の研鑽に努めることが
できただけでなく、学生と教員、学生同士が交流を図る貴重な機会にもなった。こ
の集中授業の成果確認及び発表は、その後の演習の授業の中で実施され、より効果を
高めることができた。

平成27年に木更津東高校と締結した高大連携事業は本年も7月に実施した。生徒
20数名と引率教員4名が来校し、本学音楽ホールにおいて「演奏法Ⅱ」の特設講座

を受講した。当該講座に対する評価は今回も非常に高く、今後もこのような事業を展開することによって、幼稚園教諭や保育士に対する近隣の高校生たちの興味関心が高まることを期待している。

今年度の学園祭（清和祭）のテーマは「心に残る清和祭！ 新校舎で新しい1ページを刻もう！」とした。毎年、清和祭を楽しみにしている近隣の子どもたちの期待に応えるべく、造形表現活動を活かした装飾を施し、子どもたちが楽しめる環境づくりを行った。「ダンボール縁日迷路」「小さな雪の世界」「わいわいパニック」など、ゼミごとに幼児が楽しめる企画を立案し、集客につとめた。二日間の開催で延べ2000人の来場があり、校舎内外はまるでテーマパークの様相を呈し、子どもたちの楽しそうな笑顔や笑い声に包まれた。

地域社会に対する社会貢献の一環として、本学教員が市原市及び木更津市の保育士を対象に講師を務めた講習会は以下の通りである。

- ・市原市 子どもの運動遊び 真砂准教授 10月7日実施
- ・木更津市 音楽活動の指導と援助 平田教授 古川教授 10月24日実施

本学専任教員は木更津市の教育委員会委員をはじめ、木更津市・君津市・袖ヶ浦市・富津市の子ども子育て委員等を務めており、社会貢献活動に積極的に参加している。

学生の社会的活動は、本年度もハンドベル部の活動が顕著であった。学内の行事に留まらず、地域の行事や福祉施設等からの依頼にも応じて演奏に出かける姿を頻繁に見ることができた。いずれのイベントの主催者からも、同クラブの演奏は非常に高い評価を受けており、本学の存在を地域にアピールすることができたと考えている。さらに、毎年恒例のクリスマスコンサートが12月14日に開催され、来場した100名を超える近隣の方々にハンドベルの魅力を伝えることができた。

③ 木更津総合高等学校に関する事項

本年度においても、生徒の基礎学力の充実、学習態度の向上に加え、生徒同士の良好な人間関係の構築のための取り組みを行った。基礎学力の向上については、株式会社ベネッセが開発した「マナトレ」というテキストを活用しており、英語、数学、国語の3教科について、義務教育レベルの学習内容について改めて理解を深めることによって学力の底上げを図っている。さらに、朝のホームルーム後の時間を活用した、数学、漢字、英語のミニテストについても継続して実施し、基礎学力の定着を図った。

本年度も、5月と12月に、2週間ずつの「学習態度向上週間」を設定し、生徒の学習態度の向上を促すと共に、全教員による授業の相互参観を実施した。

授業については、すべての教室に電子黒板の整備が完了し、各授業において、電子黒板を活用した授業展開が進んでいる。

また、今年度も、社会問題になっているSNSを利用したトラブルに生徒達が巻き

込まれることを防止するために、「ケイタイ教室」を開講した。外部から専門家を招き、SNS等の危険性について講演してもらうことによって、生徒達は、SNS等の正しい利用方法等についての理解を深めることができた。

部活動については、柔道部、陸上部、卓球部、ソフトテニス部がインターハイ出場を果たした。なかでも柔道部では、男子個人戦66キロ級及び100キロ級で準優勝、73キロ級で3位に入るという快挙を成し遂げた。また、ソフトテニス部においても、男子団体が準優勝に輝いている。硬式野球部においては、4年連続の甲子園出場をかけて夏の大会に臨んだが、残念ながら準決勝で敗退した。しかしながら硬式野球部は春、夏、秋の全ての大会でベスト4に入っており、安定した結果を残している。文化部においても、吹奏楽部が12月に、和太鼓部が1月にそれぞれ定期演奏会を開催し、多くの来場者が見守る中、日々の練習の成果を発揮することができた。

学校行事については、昨年度から引き続き、所属コース別の修学旅行を行った。特進コースはシンガポール、スポーツコースは北海道、その他のコースは京都、佐賀、長崎及び福岡を目的地とし、それぞれのコースの授業内容にできるだけ関連性の高い内容を盛りこんだ修学旅行を実施した。

国際交流事業としては、本年度も夏季休業中にオーストラリアへのホームステイを実施し、12名の生徒達がブリスベンにおいて2週間のホームステイを体験した。

④ 市原中央高等学校に関する事項

本年度は、普通コースをハイレベルチャレンジコースⅠ類とⅡ類に分割してから、7年目を迎えた年であった。ハイレベルチャレンジコース開設以来、中学校、学習塾及び保護者にとってもその教育内容や進学実績は大きな関心事となっており、体験入学や中学校保護者説明会、学校見学会においても、本校に興味関心のある中学生及びその保護者が多数来校された。

本年度の進学実績は、千葉大学医学部をはじめ、国公立大学に22名、私立大学についても、早稲田大学、慶應大学、上智大学といった難関大学や、医学系大学を始め、延べ491名の合格者を輩出することができた。3年前より、東京都を中心とした16から18の大学の教職員を迎えての学部学科説明会や大学入試説明会を開催しており、生徒の進路意識や大学選択への意識の向上に役立っている。また、1、2年生を対象に本校卒業生による進路ガイダンスを実施しており、生徒達の受験に対する意識の向上を図ることができた。

令和2年度より大学入試制度が大きな転換期を迎えることを受け、本校でもその対策を進めている。記述対策については、従来のハイレベルチャレンジコースⅠ類授業で取り組んでいた記述練習をⅡ類においても順次取り入れて実施した。また、英語コースにおいては、英語4技能トレーニングとして **lincEnglish** というオンライン教材の導入をおこなった。他のコースでも海外研修旅行の開催、年2回のGTECの実施、英

検対策としてオンラインによる英語学習 ELST を導入して多くの合格者を出した。また、外部機関による校内での英語教室の導入など、希望に応じて語学研修に参加できる体制を構築している。

部活動については、運動部、文化部ともに活発で、学業と部活動の両立に努め、有意義な学校生活が送られている。野球部とサッカー部が牽引する形で、多くの部活動で県大会出場など大きな実績を残すことができた。特に硬式野球部は、全国高校野球選手権千葉大会において、マリスタジアムでの3度の熱戦を経て、過去最高の県の夏大会ベスト4の素晴らしい成績をあげた。この大健闘は、本校硬式野球部の存在を広く印象づけるものとなった。また、文化部についても吹奏楽部が千葉県吹奏楽コンクールA部門で銀賞を受賞した。加えて、放送委員会がNHK全国高校放送コンテストの創作テレビドラマ部門決勝で、千葉県の歴史においてトップタイの記録となる「準優勝」の荣誉に輝いた。

⑤ 清和大学附属幼稚園に関する事項

本年度においても、本学の教育目標である、「真心教育」を中核として、園児の生きる力の基礎となる豊かな心情や意欲、関心、態度を育てることを目指して日々の活動を実践してきた。日常指導における重点項目として主に以下の6つの項目があげられる。

- (1) 特殊な教育・領域に偏ることなく、常に幼児の心身の基礎が調和的に形成されるよう指導と援助を行うこと
- (2) 園児の生活経験に即した、わかりやすい指導を行うこと
- (3) できるだけ自分の力でできるように方向づけて、園児一人ひとりの創意が生かされるように取り組むこと
- (4) 人間として、豊かな情操、力強く生きる力を身につけられるような活動を行うこと
- (5) すべての領域において小学校教育との関連を保ち、小学校につながるような指導を行うこと
- (6) 併設大学・高校と一体化を図り、大学附属幼稚園ならではの体験を展開すること

特に、日常保育の中では、自然の変化や季節の行事にあった指導計画を作成し、幼稚園教育要領に示された五領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）について、いずれも偏ることなく、調和のとれた指導を行うことを目指し、週案作成の段階から意識して取り組むことを実践した。また、園児の生活経験に則した分かりやすい指導を心がけた。一人ひとりの個性を見極め、個性にあったスモールステップでの指導援助を実践した。挨拶、手洗い、排泄、片づけ、食事といった基本的な生活習慣についても、可能な限り自分の力でできるように方向づけて、できる喜びを感じさせるような指導

に努めた。

また、人の話をしっかりと聞くこと、人前で話をしたり、自分の気持ちを伝えたりすることができるように、小グループでの話し合いの機会を積極的に取り入れている。この取り組みの効果もあり、卒園までには多くの園児が「話し合う」ということを理解し実践できるようになってきたと感じている。

また、本年度においても併設の高等学校体育教師による体育指導や外国人講師による英語学習を実施し、教育の質の向上につなげることができた。外国人講師による、英語指導は、ただ単に英語を学ぶのではなく、英語で遊ぶことや、異なる文化を体験したり国際感覚を身につけることを趣旨としており、また体育指導については、子ども達の発達段階に則したプログラムを構築しており、身体を動かすことの楽しさを教えながらも、運動遊びを通じて社会性や協調性を育てることを目標としている。

併設校からの実習も積極的に受け入れ、将来の教員・保育士を目指す人材育成の場としての役割を果たすと共に、園児たちにとってもコミュニケーション能力や人間関係能力の育成につながった。また、実習以外の場面においても、併設学校を有している幼稚園としての利点を最大限に活かし、併設高等学校の和太鼓部、吹奏楽部の特別演奏や野球部の生徒達との交流会を実施し、幅広い体験保育を展開することができた。

さらに、本年度は、令和3年度から金田幼稚園が「認定こども園」に移行するにあたり、株式会社船井総合研究所から講師をお招きして3園合同の研修会を開催した。まず、新制度幼稚園の根幹となる「子ども子育て支援新制度」についての講義から始まり、「新制度幼稚園とはどのようなものであるのか。」、「認定こども園移行によって何が変わるのか。」といった具体的な事例まで幅広く学ぶことができた。この研修会によって、教職員の意識が高まり、認定こども園移行に向けての道筋をつけることができたと感じている。

また、未就園児教室の運営方法についても検討を行った。令和2年度から、従来の未就園児教室をより体系的に実施すべく、登録制や少人数制を導入することを決定し、年間を通して様々な活動を経験させるためのプログラムの構築を行った。また、2歳児向けの教室だけでなく、1歳児向けの教室も開講することとし、成長段階に応じた様々な活動を取り入れることによって子育て支援活動として地域に貢献できればと考えている。

2、研究に関する事項

① 清和大学に関する事項

令和元年度における清和大学の共同研究として、以下の6つの研究課題についての研究が行なわれた。

- (1) Liberal Arts 再考 キャリア教育の視点から (新規)
- (2) 続・情報公開法制の総合的研究 (新規)
- (3) 大学体育授業における運動負荷の検討 (新規)
- (4) アスリート学生の学業成績向上及び中途退学防止に関する研究 (新規)
- (5) 「チーム学校」における学校インターンシップ活動の意義と教職課程の役割に関する基礎的研究 (継続4年目：最終年度)
- (6) 欧州及び非欧州から見た近代化への進展 (継続3年目：最終年度)

また、清和大学法学会では、研究紀要を発行し、教員の研究発表の機会を提供している。なお、本紀要は国立国会図書館、地方自治体図書館、各大学附属図書館等全国230施設で活用されている。

さらに、本年度も法学会主催により、研究報告会を実施した。これは専任教員全員が順番に自己の研究内容を発表するものであり、各教員の専門領域における研究活動の促進並びに教員の相互啓発を図るものである。

令和元年度研究報告会の開催状況は次のとおりである。

- 第62回 (2019.5.16) 酒本 夏輝
「運動の準備、発現に関する研究－脳内情報処理過程に着目して－」
- 第63回 (2019.6.20) 大倉 直子
「言語学と小動詞仮説」
- 第64回 (2019.7.18) 松宮 智生
「テストステロン値が高い女性は『女子』で競技できないのか？－セメンヤ問題をめぐって」
- 第65回 (2019.10.17) 織田 恭一
「90年間預貯金はなぜ遺産分割の対象とならなかったのか
－預貯金は債権でなく所有権として構成を～デジタル通貨への対応も兼ね～」
- 第66回 (2019.11.14) 柳澤 眞実子
「著作者人格権侵害に対する名誉回復措置請求」
- 第67回 (2020.1.14) 谷津 貴久
「情報リテラシー再考」

令和元年度の競争的資金等に係る研究は、次のとおりである。当該研究者は、他大学所属研究者を研究代表者とする採択課題の研究分担者として、積極的に課題に取り組んだ。

○科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（独立行政法人日本学術振興会所管）

研究者：小松伸之（基盤研究(B)／継続4年目(最終年度)）

研究課題：自国史を越えた歴史認識の共有をめざす日韓共通歴史教材の発展的研究

○科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（独立行政法人日本学術振興会所管）

1 研究者：小松伸之（基盤研究(C)(一般)／継続2年目）

研究課題：「包摂と排除」の社会意識と社会科カリキュラムの改善に関する研究

2 研究者：小野上真也（挑戦的研究(萌芽)／継続2年目）

研究課題：自律的人工知能の法主体性

② 清和大学短期大学部に関する事項

令和元年度の研究活動としては、本学研究委員会で編集した紀要第48号を令和2年1月31日に発行している。その内容は下記の通りである。

<論文>

・園児と保育者の別れの種類と特徴に関する文献・アンケート調査

－保育場面における別れに関する臨床心理学的研究1－：井上 美鈴 専任講師

<研究ノート>

・保育者養成における音楽的資質向上への取り組み(4)

－ハンドベル演奏の指導を通して－：平田 和世 教授

・清和大学短期大学部学生の体力と運動能力(2)

－2015年度から2017年度における調査－：真砂 雄一 准教授

・文化遺産「松本ピアノ」の保管の現状と考察：鈴木 希実 助教

<授業研究>

・保育者養成における音楽教材の研究：古川 哲也 教授、鈴木 希実 助教

また、令和元年度の公的研究費を使用しての活動は以下の通りである。

- ・淑徳大学の研究者が代表をつとめる、独立行政法人日本学術振興会による科学研究費助成事業（基盤研究Cの研究課題「乳児の『泣き』に起因するストレスへのレジリエンス向上プログラムの構築」に関して、本学の徳永聖子講師が研究分担者として参加した。

その他の教員についても、著書の執筆活動のほか、所属学会等における、論文発表、ポスター発表等、精力的に研究活動に取り組んだ。

所属学会等における研究活動は以下の通りである。

・実習指導者研修の及ぼす効果と課題：佐藤 恵 専任講師

日本保育学会ポスター発表 令和元年5月

- ・ 社会的ネットワークの視点で捉える幼児の創造性についての考察 : 加藤 緑 専任講師
日本乳幼児教育学会ポスター発表 令和元年 12 月
- ・ 育児雑誌「ひよこクラブ」が読者に与える情報の探索的分析 : 加藤 緑 専任講師
日本乳幼児教育学会自主シンポジウム 令和元年 12 月

3、キャンパス等充実に関する事項

令和元年度におけるキャンパス等の充実に関する事項としては、まず、清和大学附属金田幼稚園の新園舎建設用地の取得があげられる。幼稚園に隣接する土地が、土地区画整理事業の保留地として販売されたため、入札に参加し、無事に落札することができた。

また、清和大学短期大学部の新校舎の完成に合わせて実施した、清和大学の体育施設の改修工事が5月に完了した。当該工事は、旧学生食堂を体育施設へ改修したことに加え、既存の体育館部分についても、照明機器や壁面等の全面的なリニューアル工事を行った。更衣室やトイレ等についても増設を行い機能面での充実を図ったことによって、大学及び短期大学の授業等で有効に活用されている。更に、清和大学においては、アクティブラーニング教室の整備を実施し、プレゼンテーションや、グループディスカッション等の授業を展開する際に、積極的に利用されている。

木更津総合高等学校においては、昨年度実施した男子寮の耐震補強工事に続き、野球部寮においても、耐震補強工事を実施した。

主な機器備品等の設備状況については、昨年度に引き続き、木更津総合高等学校における電子黒板等の整備を行ったことがあげられる。また、市原中央高等学校においても、同様に電子黒板等の整備事業の第1期工事を実施した。これにより、木更津総合高等学校においては昨年度と本年度で、市原中央高等学校においては、本年度と来年度で、全ての教室において電子黒板機能の付いたプロジェクターまたは Android 搭載テレビの設置が完了することとなり、授業等で積極的に活用されることを期待している。

また、清和大学及び木更津総合高等学校においては、サーバー及びネットワーク機器の更改を実施した。木更津総合高等学校においては、一部のサーバーをクラウド化することによって、運用面、管理面での充実を図った。

また、バスの老朽化の対策として、木更津総合高等学校においてスクールバスの増車を行った。その他、各設置校において、施設設備の維持管理上必要となる修理修繕を適正に実施した。

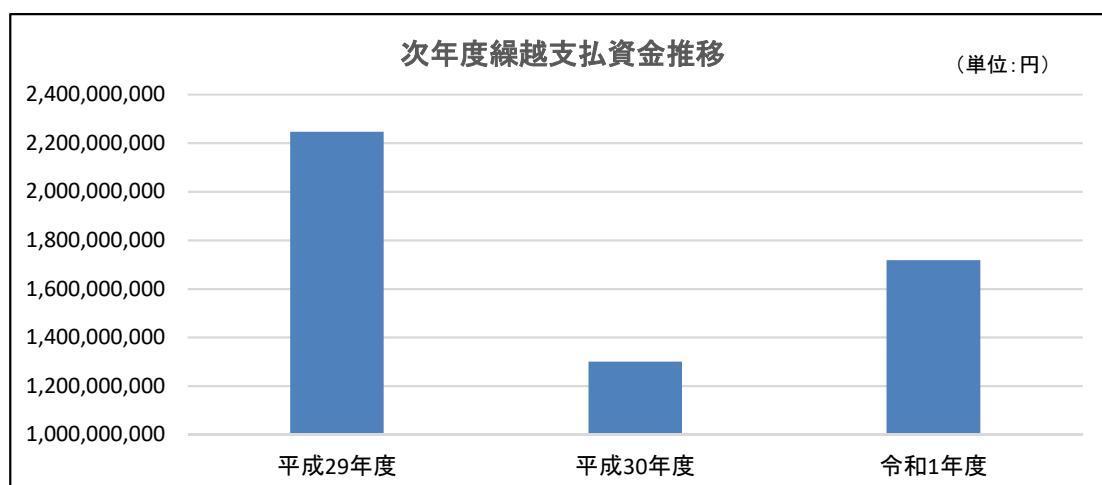
Ⅲ 財務の概要

1、財務の経年比較

①資金収支経年比較表

(単位 円)

<収入の部>			
科目	平成29年度	平成30年度	令和1年度
学生生徒納付金収入	2,589,743,866	2,549,954,300	2,517,808,830
手数料収入	71,201,716	66,251,563	72,440,190
寄付金収入	84,150	4,239,125	2,148,193
補助金収入	1,594,155,143	1,834,049,340	1,424,074,357
資産売却収入	0	33,184	1,187,235
付随事業・収益事業収入	370,212,794	357,723,531	255,859,725
受取利息・配当金収入	795,803	71,258	75,263
雑収入	147,660,288	187,528,712	281,571,185
前受金収入	478,753,250	480,398,700	470,881,100
その他の収入	330,108,337	446,133,518	714,152,001
資金収入調整勘定	△ 763,771,450	△ 1,021,440,350	△ 740,599,765
前年度繰越支払資金	2,160,308,789	2,246,130,107	1,300,564,896
収入の部合計	6,979,252,686	7,151,072,988	6,300,163,210
<支出の部>			
科目	平成29年度	平成30年度	令和1年度
人件費支出	2,555,953,604	2,573,543,276	2,727,248,024
教育研究経費支出	1,040,507,985	1,044,693,485	1,069,021,755
管理経費支出	427,533,330	416,739,617	331,153,758
施設関係支出	381,311,448	1,472,092,048	116,552,582
設備関係支出	115,142,266	140,256,691	249,671,367
資産運用支出	21,078,680	33,308,182	4,624,838
その他の支出	434,114,572	411,995,280	475,567,018
資金支出調整勘定	△ 242,519,306	△ 242,120,487	△ 392,239,592
次年度繰越支払資金	2,246,130,107	1,300,564,896	1,718,563,460
支出の部合計	6,979,252,686	7,151,072,988	6,300,163,210



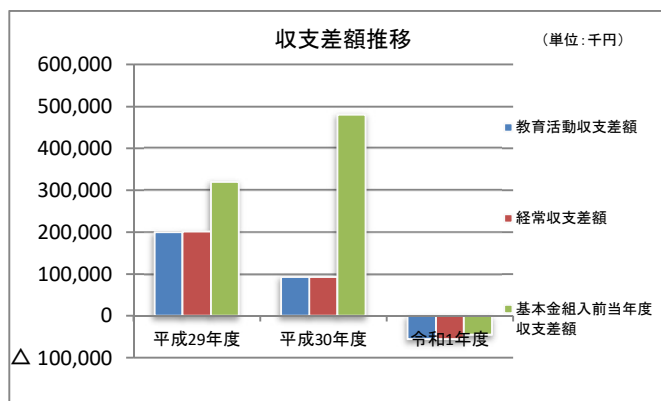
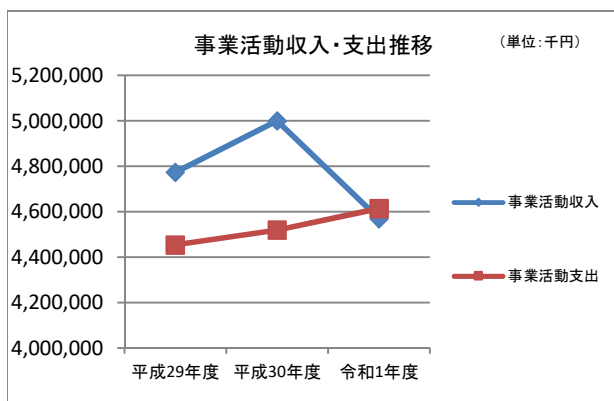
②事業活動収支経年比較表

(単位 円)

科 目		平成29年度	平成30年度	令和1年度
教育活動収支	収入の部			
	学生生徒等納付金	2,589,743,866	2,549,954,300	2,517,808,830
	手数料	71,201,716	66,251,563	72,440,190
	寄付金	84,150	4,239,125	2,148,193
	経常費等補助金	1,456,748,143	1,426,978,340	1,395,213,357
	付随事業収入	370,226,158	357,732,959	255,866,629
	雑収入	147,660,288	187,523,582	295,922,296
	教育活動収入計	4,635,664,321	4,592,679,869	4,539,399,495
	支出の部			
	人件費	2,557,926,596	2,587,745,770	2,727,248,024
教育研究経費	1,397,954,029	1,427,206,196	1,452,490,358	
管理経費	479,563,782	477,598,702	414,575,492	
徴収不能額等	0	7,277,150	932,500	
教育活動支出	4,435,444,407	4,499,827,818	4,595,246,374	
教育活動収支差額	200,219,914	92,852,051	△ 55,846,879	
教育活動外収支	収入の部			
	受取利息・配当金	795,803	71,258	75,263
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入	795,803	71,258	75,263
	支出の部			
	借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外収入	0	0	0	
教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外収支差額	795,803	71,258	75,263	
経常収支差額	201,015,717	92,923,309	△ 55,771,616	
特別収支	収入の部			
	資産売却差額	0	0	1,167,580
	その他の特別収入	137,407,000	407,076,130	28,990,739
	特別収入計	137,407,000	407,076,130	30,158,319
	支出の部			
	資産処分差額	0	889,834	69,251
その他の特別支出	19,105,688	19,105,688	19,105,688	
特別支出計	19,105,688	19,995,522	19,174,939	
特別収支差額	118,301,312	387,080,608	10,983,380	
基本金組入前当年度収支差額	319,317,029	480,003,917	△ 44,788,236	
基本金組入額合計	△ 410,173,638	△ 1,545,649,968	△ 320,361,403	
当年度収支差額	△ 90,856,609	△ 1,065,646,051	△ 365,149,639	
前年度繰越収支差額	△ 6,249,085,398	△ 6,339,139,490	△ 7,404,505,531	
基本金取崩額	802,517	280,010	686,620	
翌年度繰越収支差額	△ 6,339,139,490	△ 7,404,505,531	△ 7,768,968,550	

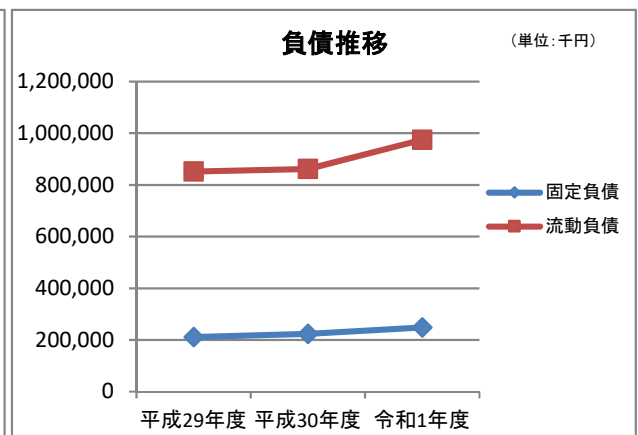
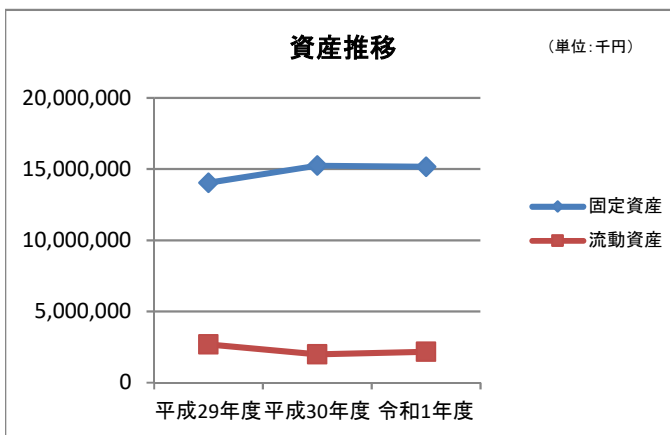
(参考)

事業活動収入計	4,773,867,124	4,999,827,257	4,569,633,077
事業活動支出計	4,454,550,095	4,519,823,340	4,614,421,313



③貸借対照表経年比較表

資産の部			
科目	平成29年度	平成30年度	令和1年度
固定資産	14,047,390,681	15,246,613,768	15,164,422,828
有形固定資産	13,476,285,864	14,647,463,136	14,549,868,585
土地	3,478,570,239	3,478,570,239	3,520,120,239
建物	7,528,636,172	8,979,472,804	8,764,939,745
構築物	1,317,797,819	1,258,784,402	1,177,765,336
その他の有形固定資産	1,151,281,634	930,635,691	1,087,043,265
特定資産	533,722,458	567,030,640	571,655,478
その他の固定資産	37,382,359	32,119,992	42,898,765
流動資産	2,691,509,947	1,994,316,147	2,170,553,952
現金預金	2,246,130,107	1,300,564,896	1,718,563,460
その他の流動資産	445,379,840	693,751,251	451,990,492
資産の部合計	16,738,900,628	17,240,929,915	17,334,976,780
負債の部			
科目名	平成29年度	平成30年度	令和1年度
固定負債	211,260,134	223,292,472	248,436,612
流動負債	851,360,821	861,353,853	975,044,814
負債の部合計	1,062,620,955	1,084,646,325	1,223,481,426
純資産の部			
科目名	平成29年度	平成30年度	令和1年度
基本金	22,015,419,163	23,560,789,121	23,880,463,904
第1号基本金	21,719,419,163	23,264,789,121	23,584,463,904
第4号基本金	296,000,000	296,000,000	296,000,000
繰越収支差額	△ 6,339,139,490	△ 7,404,505,531	△ 7,768,968,550
翌年度繰越収支差額	△ 6,339,139,490	△ 7,404,505,531	△ 7,768,968,550
純資産の部合計	15,676,279,673	16,156,283,590	16,111,495,354
負債及び純資産の部	16,738,900,628	17,240,929,915	17,334,976,780



2、借入金の状況

借 入 金 明 細 票

自 平成31年 4月 1日
至 令和2年 3月31日

(単位 円)

借入先		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	利率	返済期限	備考	
長期 借入 金	公的金融機関								
	小 計	0	0	0	0				
	市中金融機関								
	小 計	0	0	0	0				
	その他								
	小 計	0	0	0	0				
	計	0	0	0	0				
	短期 借入 金	公的金融機関							
		小 計	0	0	0	0			
		市中金融機関							
小 計		0	0	0	0				
その他									
小 計		0	0	0	0				
返済期限が1年以内の 長期借入金		0	0	0	0				
計		0	0	0	0				
合 計		0	0	0	0				